



NEWS LETTER vol.2

※当委員会は、新型コロナに代表される感染症や自然災害の調査・検証、復旧・復興、防災対策等を目的として設置された特別委員会です。適宜情報提供を行って参ります。

「よこはま防災力向上マンション」の認定制度創設

近年、台風や豪雨などの風水害が激甚化・頻発化しており、令和元年東日本台風では、大雨に伴う内水氾濫などにより、首都圏の高層マンションにおいて電気設備が浸水し、居住継続が困難になるといった被害が生じました。こうした中、災害に強いマンションの形成と、地域住民を含めた防災力の向上を図るため、防災対策を実施しているマンションを「よこはま防災力向上マンション」として認定する新たな制度を令和3年度内に創設される予定です。

認定は住民活動が対象の「ソフト認定」と、耐震性や設備面など建物全体の「ハード認定」がある。加えて地域と連携が図られている場合は「ソフト+(プラス)認定」「ハード+(プラス)認定」も設定。ソフト、ハードどちらかでも申請可能。

新築マンションは物件PRにつなげられるほか、既存マンションの場合は住民の防災意識の向上なども期待されます。同時に物件の資産価値向上も見込めますので、積極的な活用をお勧めします。

「ソフト認定」基準

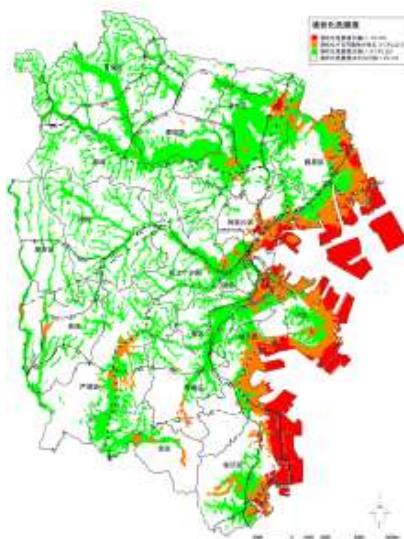
- ① 自主防災組織の結成
 - ② 防災マニュアルの策定
 - ③ マンション内の防災訓練を年1回以上実施
 - ④ 飲料水、食料、トイレパックの備蓄
- ※①～④すべて満たすことが必要

「ハード認定」基準

- ① 新耐震基準相当の耐震性能
 - ② 浸水対策
 - ③ 延べ面積5㎡以上の防災倉庫の設置
 - ④ 小型発電機や救助用資器材など防災備品の設置
 - ⑤ マンホールトイレ等の設置
- ※①～⑤すべて満たすことが必要

その他、地域との連携が図られていれば「ソフト+認定」「ハード+認定」がされる。

南海トラフ巨大地震に備えて



横浜市 南海トラフ地震液状化分布図

テレビドラマで「日本沈没」が放映されています。当然フィクションですが、地球科学の専門家である京都大名誉教授・鎌田浩毅氏によると、①南海トラフ巨大地震は約10年後に襲ってくる(2035年±5年)②その災害規模は東日本大震災より一桁大きい、と指摘しています。

政府の地震調査委員会でも、南海トラフ巨大地震については30年以内に発生する確率を70～80%としています。内閣府の想定では、地震の規模は最大でM9.1で、九州から関東までの広範囲にわたって震度6弱に見舞われます。津波は最大で34m。犠牲者は最大で約32万人、そのうち7割が津波によるものと予測されています。全壊する建物は239万棟、経済的損失は220兆円という数字が挙げられており、全人口の半数近い16000万人が被災します。当然、関東地方にも影響があり、横浜市でも液状化マップ等を公開しています。

もし人々が自発的に避難すれば津波の犠牲者を最大8割まで減らすことができ、また建物の耐震化率を引き上げれば全壊も4割まで減らせる試算もあります。東日本大震災で大きな問題となった「想定外」をなくすには、まず日常感覚に訴える情報伝達から始めなければならないのです。

どこでどのような災害が起きるかは、内閣府や自治体が公表しているハザードマップを事前に見ておくといよいでしょう。国や自治体を頼りにするだけでなく、自分の身は自分で守るべく、日ごろから会社や家庭で備えておくことが大切です。

参考:2021年9月12日サンデー毎日

災害時のペット対応～災害に備えましょう

災害発生時には地域防災拠点等にペットと一緒に避難する人が多くいます。災害に備えて大切なペットのために日頃から対策を考えておきましょう。

- ① 飼い主さんの明示・・・災害時に迷子になることがあります。犬には鑑札や狂犬病予防注射票、迷子札やマイクロチップの装着など飼い主の明示をしましょう。
- ② しつけ・・・避難所には沢山の避難者が集まりますので基本的なしつけが大切です。キャリーバッグやケージに入ることに慣らすことも必要です。特に犬は「待て」「座れ」「無駄吠えをさせない」、猫は「人とのふれあい」に慣らしておくなどのしつけが役立ちます。
- ③ 健康管理・・・ワクチン、狂犬病予防接種、ダニ、ノミの駆除などを日頃からしておきましょう。
- ④ 動物用避難用具の用意・・・救援物資は直ぐに届かないことを想定して5日分は準備。(フード、水、薬は最低でも5日分、ペットシート、キャリーバッグ、ペットゲージ等)
- ⑤ 預け先を確保・・・いざという時のために、親戚、友人等ペットの預け先を探しておきましょう。特に虫類など管理や受け入れが難しい動物は、預けられる先が必要です。



横浜市 災害時部のペット対策

住宅・建築物において気をつける対策

感染予防、健康関連について、住宅・建築物において気をつけるべき対策等の情報提供を行います。

■手洗い・消毒について

ウイルスを建物に持ち込まないためには、玄関や建物入口での手洗い・消毒が特に有効と考えられます。ドアストッパー等を活用して、室内換気のために入口開口を開放することにより、ドアノブへの接触の機会を減らすことができます。照明や水栓金具について人感センサーやフットスイッチ等を活用した非接触化も有効と考えられます。リフォームでは玄関への手洗いスペースの設置も可能です。手を触れる部分(ドアノブ等)について、消毒のためにアルコール等を含む消毒液を用いる場合には、材質や塗装、仕上げ方法によっては、変色・変質する場合があります。

■換気について

換気設備*がある場合は、常時運転しましょう。(平成15年7月以降に建築された住宅であれば、24時間換気設備が設置されています)

換気設備*がない場合は、浴室やトイレの換気扇を常時運転しましょう。

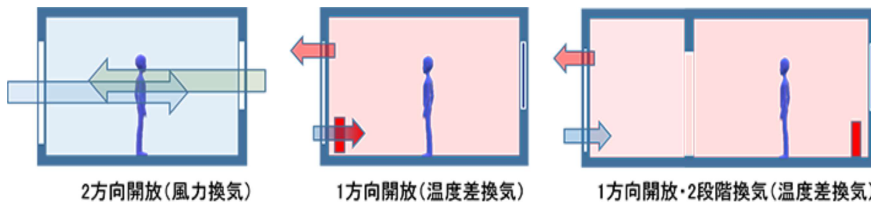
換気設備の点検を行うとともに、フィルターを掃除するなど、適切にメンテナンスを行いましょう。

来客時など感染リスクが高くなる場合には、窓開け換気、厨房換気扇の利用などによって換気量を増やしましょう。また、空気清浄機を利用してエアロゾルを捕集しましょう。

室内の二酸化炭素濃度を測定して換気の程度を把握し、濃度が上昇した時には、在室者数を減らす、換気量を増やす又は空気清浄機を運転することによって感染リスクを抑えましょう。

窓開け換気については、室内環境が悪化しないように暖冷房設備を利用し、気象条件(風、雨、雪等)、外部環境(騒音、空気汚染等)を踏まえて、窓開け方法を工夫しましょう。なお、暖冷房と窓開けを併用する場合、エネルギー消費量は一般的に増加します。

住宅に感染者や濃厚接触者が待機する場合には、ビニルカーテンを用いて感染者と家族との生活スペースの分離を行い、更にエアロゾル感染のリスクを低減するために感染者のゾーンを陰圧化しましょう(3)。



季節	室内環境	常時開放	一時開放	換気動力	留意点
夏期 冷房時	28℃以下 (RH70%以下)	2方向 小さく開放	2方向 大きく開放	風力 (外部風の風速・風向の変化に伴い換気量が変動する。)	2方向開放について ・大きな換気量を得ることが出来る。 ・雨の吹込み、換気量の変化に応じて、開放程度を調整する必要がある。
中間期	18℃～28℃ (RH40～70%)	2方向 大きく開放			
冬期 暖房時	18℃以上 (RH40%以上)	1方向 小さく開放	1方向 大きく開放	内外温度差 (内外の温度差によって換気量に変化する。)	1方向開放について ・風の影響を受けづらく、暖房により室温が安定すると、安定した換気量が得られる。 ・開放窓近くの暖房機、使用していない空間を利用(2段階換気)して、冷氣対策を行う必要がある。

注) 室内環境による健康影響への配慮が必要な高齢者などの場合は、より望ましい室内環境が必要である。

(一財)建築環境・省エネルギー機構 HP より

インフルエンザワクチン

昨シーズン(2020/2021)は、季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症との同時流行が懸念されたことから、ワクチンの供給量使用量は過去最大となりました。

しかしながら、実際の感染者数については、例年の1,000分の1程度に留まり、シーズンを通して流行入りをすることはありませんでした。

今シーズン(2021/2022)のワクチン供給量は、コロナ禍以前と同程度になる見込みであると厚生労働省より発表されています。しかし、11月以降も継続して供給されるため、こちらも過度な心配は必要ないでしょう。健康な大人であれば、接種が11月以降になっても流行のピークに十分に間に合うので、特に急いで接種する必要はないと思われます。

<参照:厚労省 HP>

注射嫌い(コラム)



コロナワクチンの注射を打って思うことがあります。幼少期に痛い思いをした記憶からか、針が体内に入っていくのを直視できない、というよりも、逆に怖いので打っているところを凝視してしまうので、尚更痛く感じるようになってしまいました。ところがあることがきっかけで注射に抵抗がなくなりました。

あることとは、最近、注射の痛みより痛いヘルニアに罹り治療を行っていましたが、一向に良くなりません。そこで、あまり聞き慣れない「ペインクリニック」で少しは痛みが改善するかと思いネットで評判のクリニックに行ってみました。

嫌な注射も我慢した結果、大正解、1回目の注射で嘘のように痛みがなくなり、花粉症、肩こりまで良くなるおまけつき。それ以来、注射することで良くなるという思いから逆に注射を打って貰いたい衝動にかられます。

ペインクリニックは、1962年に東京大学の麻酔科学教室に外来として誕生し、痛みの原因となっている神経の近くに局所麻酔薬や抗炎症薬を投与することにより『痛みをブロック』する治療を行います。意外にも、どんな痛みでも受け入れてもらえると思って驚きです。なかでも患者数が多いのは、肩こりや腰痛、足の痛み、帯状疱疹など。整形外科ではなかなか治らない痛みの緩和を期待して利用される方が多いようです。

但し、ペインクリニックの注射の打ち方は医師により差があり、当方も3件目のペインクリニックで初めて効果を得たことを申し添えておきます。

(y)